

全国公立学校退職教頭会

会報

第72号

公教育における

ニューノーマルを考える

元全国公立学校教頭会会長 吉田 一義

令和二年度は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大によって、私達の生活様式や学校教育等に様々な変化を起こし、影響を及ぼしてきました。

私は、定年退職前は、東京都公立小学校副校長会、関東甲信越ブロック公立学校教頭会、全国公立学校教頭会で会長を経験させていただき、多くのことを学びました。退職後も現役の教頭・副校長先生達と繋がり、これまでの経験を通してお手伝いがしたく、現在、東京都公立小学校副校長会の事務局長としております。

本年度は、コロナ禍のため、全公教の研究大会を始め、関プロ研究大会、東京都公立小学校副校長会研究大会等、参集型の研究大会が開催できず、全てが誌上発表となりました。様々な会議などもリモートで行われることが多くなりました。都小副校長会も、六月初旬までは役員会や幹事研修会も中止が続きました。その後は、ほぼ予定通り開催することができてきました。

これはある地区の一例ですが、年度当初、各学

校では、新型コロナ感染拡大の影響で入学式は校庭での実施となり、四月は緊急事態宣言発令を受け、臨時休校となりました。

- ・ 時数の確保は？
- ・ 遅れを取り戻すには？
- ・ 家庭学習はどの位の量でどんな形で配布するか？

様々な課題を解決するため各校で工夫がなされました。

また、区市町村教育委員会からの通知に対応するため、近隣校との連携も密に行いました。YouTubeや動画編集等、ICTの活用が励行され、若手教員の活躍が光りました。

六月に入り、分散登校が二週間にわたり行われました。この期間は、午前組(三時間授業↓給食)、午後組(給食↓三時間授業) 児童下校後教室消毒作業と、先生方は休む間もない過酷な日々を送った学校が多数ありました。倒れる人が出るのではないかと心配もしたそうです。第三週からは通常授業が再開されました。校外学習や行事が中止や延期になったため、ひたすら学習の日々。それでも子供たちは段階的な登校により、スムーズに学習に集中する姿勢が身に付きました。

それから八か月、検温、三密を避ける、ソーシャルディスタンス、マスク着用、手指消毒、新たな学校生活様式、学習様式が定着してきました。今ではかなり日常に戻ってきたようです。時数も標準近くまで確保でき、未履修も解消してきました。

令和三年一月、中教審はこれからの学校づくりの指針となる「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を公表しました。ここには、これまでの日本型学校教育のよさを継承しつつも、新しい時代の日本型学校

教育を創っていくための方向性が示されています。

その推進力となるのが、新学習指導要領の着実な実施、GIGAスクール構想によるICTの活用、学校における働き方改革等です。そして、我々には、その理念の理解と発想の転換が求められています。

その内容は、

「二項対立」からの転換

デジタルかアナログか、「AかBか」ではなく、双方のよさを上手く取り入れ組み合わせること。

「正解主義」からの脱却

正解を出すことが大切のではなくその過程で生まれる思考力に価値があること。

「同調圧力」からの解放

「みんな一緒に同じように」ではなく、「みんな違うけどみんな一緒に」ということ。

の三つが強調され、これまでの意識やシステムを変えることが新しい学校づくりのはじめの一步であるとしています。

今、コロナ禍がきっかけとなりGIGAスクール構想が前倒しとなり、多くの地区で児童へのタブレットの配布が進んでいます。この一年で学んだニューノーマルな生活や一人一台のタブレットの活用、学校教育で変わらぬものの指導の徹底、働き方改革等をさらに進めようとしている現役の教頭・副校長先生方を、これからも全力でバックアップしていきたいと思えます。



各県の会報誌に掲載された会員の  
投稿文を選んで載せてあります

# 広島県

広島県公立学校退職教頭会  
会報 第二三号より

## 地震・雷・火事・オヤジ

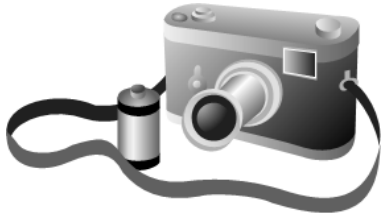
びさん支部 行長 啓三

この言葉は、世の中で特に怖いとされているものを順に並べて、調子よくいったことばであるが、最後の「オヤジ」は、台風を意味する「大山嵐（おやまじ）」が変化したという説もある。

しかし、「オヤジ」の代わりに「女房」や「津波」など、怖いものに置き換えたり、ただ座っているだけで家庭の隅々までゆきわたっていた父親の権威のように威力抜群で人知の及ばぬことに使われることもあるようだ。

「親父」といえば、最近ことのほか二十年前に癌でなくなった父のことが思いだされる。

私の父親（昭和初期生まれ）は、新し物好きで、カメラ・八ミリ・VTR・バイクに車・パソコンと新製品が発表されると数日後には我が家でお目にかかることが多かった。多彩な趣味と読書好きで、時代の先端を走っていたためか、古い時代の「親父」とは異なり、声を荒げて叱責されたことは皆無で、人に迷惑をかけた時、間違っていたことをしたときは、時に散歩に連れ出し、切々と道理を説い



て、親の思いを語って聞かせてくれ、どんな説教よりも骨身に沁みた思い出が残っている。

その父が、私が中学三年の時、中学校の PTA 新聞に投稿した「父の権威」と題した文章を、数年前の六十歳を契機に行われた中学校の同窓会で同級生から記念に頂いた。

要旨は、中学生を持つ親として、当時の急激な社会変化の中で虫ばまれ、暴徒化していく若者を社会的不安の火消役としてどのように育てなければならぬか自問し、わが子が一人前に成長するまでに、いつのまにか良い感化を与えていたというような良い点を一つでも多く持つ父親になりたうという内容であった。

自身すでに成人した子をもつ親としての今の思いは、横道にそれることも無く、良き伴侶を得て、明るい家庭・家族を築いてほしいとの思いのみである。

孫の守にその主眼が移りかけている昨今、わが身の終活計画は、退職と同時に再就職し取組んでいる市の有害鳥獣対策業務の推進と地元地域コミュニティの活性化及び農業再生振興に尽力することである。

以前に観た映画「男たちの大和」で語られた「死に方用意」の心境で、シンプル・自然をモットーに残された二十年前後であろう人生を燃え尽きたと思う毎日である。

## 退職して思うこと

広島支部 川本 通

みなさんはじめまして、この度退職教頭会に入会させていただきました川本通です。この四月で退職したわけですが、私の経歴は少し変わっていて、教頭になる前は社会教育に向向していて、公民館の館長を八年間していました。ですから、八

年間の教頭職と合わせて、管理職経験が十六年ととても長く勤めさせていただきました。公民館での経験は教員という目から抜けて、社会・地域の様子を体験することができてとても貴重なことでした。それは学ぶことは一生であるということですね。

学校教育は教科学習が主で必ずそれを履行しなければならぬわけですが、生涯学習は色々なことがあり、町の万屋相談的な所がありました。ある時、おじいさんが犬がおらんようになったと血相を変えられて公民館に入ってこられました。探してくれといわれるので、こんなことは業務に入っていないけれどなど思いながら、犬さがしをしました。ですが、どこを探してもいないので途方に暮れました。探している最中、公民館ではここらへんで迷子のおじいさんがいないかといつて来られた方がいました。結局、迷子はおじいさんだということが分かって一件落着きました。



こんな笑い話みたいなことがありましたが、そのおかげで認知症サポート講座を包括センターと合同で開き、学びが広がっていききました。これから退職教頭会でお世話になりますが、今後ともよろしく願います。我が家の中で一番気に入っている場所は、一階リビングの窓のそばの椅子です。

朝、カーテンを開けその椅子に座ると、硝子戸の内側に並べた沢山の観葉植物にすぐ触れることが出来、窓の外側に目をやると、小さな我が家の庭、そこで咲いている花たちの様子や表情が見てとれます。



# 富山県

富山県公立小中学校退職教頭会 会報第五三号より

どうしとられる？ がんばつとつちや！

(R二年八月取材)

“人生百年”と言われるせい八十歳を過ぎても私の仕事は一向に少なくならず、あくせくとした日々を送っている。しかし、体はあちこち故障してくるし、脳の働きも怪しくなってきた。そのせいか私の行き先のことや、遠い昔のことに思いを馳せているこの頃である。

- ・こぶしの花目つぶりながら落ちてくる A子
  - ・おひな様片づける時梅匂う B子
  - ・先生が写真を撮ってる花見かな A男
  - ・小鳥の墓に菜の花かざる暗さかな C子
  - ・星月夜千保の川の水の音 B男
  - ・卒業近い雪にも匂いあると知る C男
- 等々。

子供たちは、

こんな詩を作ったことさえ忘れて、人生の荒波のなかで活躍しているであろうが、私にとつては小学生の時のあどけない姿のままである。そんな言葉の数々が老いばれ私の脳にやさしく沁み溢れ活力となっている。



こぶしの花

- ・陽に焼かれ一日の命花芙蓉
  - ・縦横の無尽に泣きて芙蓉終わる
  - ・すでにしてコスモスの風吹き初めぬ絹子
- 伊藤絹子(H.八退)

平成十三年のある日、植物に詳しい先輩から、山野草を愛する人達の会「深山会」への入会を勧められました。春になって筍掘りに竹林へ入ると、私は筍掘りより先に、可憐な花を咲かせているキンランやギンラン、コケイランなどの山野草を見て回るのが楽しみでした。すぐに山野草の会へ入会しました。



キンランの花

山野草を育ててみると、水不足でぐったりしている姿に「ごめんね」と謝りながら水をやり、翌朝には凛とした姿で立っているのを見るところれしくなり、山野草から元気をもらっている自分気付かせてもらっています。何事にも長続きしない私が十八年間、春と秋の山野草展に欠かさ



ギンランの花

草から元気をもらっている自分気付かせてもらっています。何事にも長続きしない私が十八年間、春と秋の山野草展に欠かさ

ず出品してきたことに、自分自身驚いています。我が家の竹林は、山野草の宝庫だと自負していましたが、何年か前から市の楽園に様変わりしてしまい、私の大好きな山野草も筍も見付けることができなくなっていました。

谷内玲子(H.八退)

書との出会いは、東京から氷見に来てキトキト書道教室と銘打って二日間開講してくれた従姉のおかげでした。筆に墨汁をたつぷりと含ませ深呼吸して、畳一枚大の紙に太筆二本をガツと握り、墨汁がポタッと落ちたのもかまわず「風」と勢よく書いたのです。

こんな大胆に字を書いたのは、生まれて初めての事でした。高橋順子のエッセイから採ったものです。『風の族(うから)』

高橋順子



強い風するとき人は身を縮こめたり背中を向けてしまふものだが、それに較べて鳥たちのあの胸を張った立派な姿勢はどうだ。

父が亡くなって三ヶ月、寂しさに打ちひしがれていたのが、不思議と元氣パワーをもらったのです。

退職後そんなことが契機となり、東京へ出かけて書を習っていました。ところが頼りにしていた従姉は、「八十歳になったので教室を閉じる」と言いました。丁度私は大腿骨折で正座もできない状態でした。

結局、書道という“道”に近づくことなく“書”のままに終わった私、只今喜寿。さてこれから自立できるかしら？

鈴 祥子(H.十五退)

# 静岡県

静岡県公立小中学校退職教頭会会報 静岡朋第六八号より

（磐周退職教頭会会報 明悠 第五三号より）  
近況と健康

誰葉市 大場孝純

「晴耕雨読」⇄「晴耕雨動」

一日は、畑仕事から始まる。浜北（妻の実家）に車で出かけ、野菜づくりをする。初めは、一坪から始め、今では百坪の広さで豆・キャベツ・芋などいろいろな野菜をつくっている。できた野菜は友達や身内などに配り喜ばれている。無農薬であるために虫にも喜ばれる。おいしい味になる。

今、ボランティア活動を行っているのが退職の翌年からで十三年目に入る。活動に携わっている八人の仲間（旧豊田町在住）と月一回の事例研究においてお互いに自分の考えを述べ合い、実態把握とそのケースについて活動のサポートを支え合っている。様々の職種を勤務してきた方々であるため、いろいろな意見や考えが出され、私がびっくり驚くことがある。気がつかなかった考えや意見である。また、県外の施設の視察研修も年二回と懇親会など活動がある。暇がない程ではあるが、責任ある活動内容であるため大変さはある。面白いというか楽しみなことでもある。

次に、退職教職員互助組合の立体書画クラブである。会員数の減少により、活動の回数（作品の批評会や懇談会）が減ってきた。さらに会員の高齢化によりなかなか作品の持ち寄り数もなくなってきた。私が一番の若輩であるため会の代表を務めている。作品展を磐周教育研究所ロビーで二月に行っている。作品を鑑賞してくれる方も多くな

いがおられると聞く。雨の日は自宅の作業場で作品作りを行う。文字・模様・色など板・竹に合わせ考える。工夫するところはどこか？おもしろさを伝えるにはどうしたらよいか？貰ってくれる人が喜んでくれるか？など・・・、それが、頭脳の活性化につながり難しさはあるが楽しみなことでもある。

さらに、食後（昼・夕）の散歩。七千歩以上を目標に持病（家系による）が三十年に至る。不規則な生活（現職時代・・・給食の早食い、短い就寝時間、一日の半分ほどの勤務時間、ストレスなどが大きな原因と考えられる。

主治医による指導では、体重（太らない）の管理・体調（風邪をひかないインフルエンザにかからない）の管理を重点に話される。

孫業を妻と共にやっている。妻の母親と年二回の旅行を行う。楽しい生活、そして、ストレスをためない生活をするので持病と仲よくつきあっている。



## 歌の持つ力を信じて

藤枝・焼津地区 遠藤久仁雄

教員の勤めを終え、早や九年が経ちました。退職後は、父の介護に専念する覚悟でいましたが、一月の下旬に、父は突然天国へ旅立ちました。今更教育界に復帰できなくなった私でしたが、自由な生き方を手に入れたのです。それが音楽活動でした。若いころから歌が好きで、在職中も生徒の前でギター片手によく歌いました。



在職中、SBSテレビでドキュメンタリー番組「俺は歌う教頭」が放映されました。早速「おにくうどんえ」の名前で音楽活動を始め、CDの制作に取り組みました。しかし十年間中学校の教頭として体験した思いを歌った「とうとう教頭」が、なんと放送局から放送禁止歌に指定されたのです。世の中うまくいかないものです。

その後、音楽活動は順調に続いています。そして現在は市議会議員を務め忙しい日々です。コンサートを開いたり、イベント等への出演もしますが、一番多いのはデイサービスなどの福祉施設への訪問です。

ここでは童謡・唱歌・歌謡曲をギターの演奏に合わせて一緒に歌います。弾き語りですので、曲と曲の間に昔を偲んでいろいろなお話をさせていただきます。

一時間くらいの演奏ですが、まるで授業をやっているように感じられます。





前日までに選曲を考え、話の内容や場の工夫によりどの場面でどうやったら盛り上がるかなど、まるで授業案を考えているのと同じなんです。大変喜んでくださる方が多く、中には涙する方もいらっしやいます。歌は皆さんをその時代へとタイムスリップさせ、大切な思い出をよみがえらせてくれます。

歌の持つ力を信じ、私も気力と体力の続く限り、音楽活動を続けてまいります。

### ボランティア活動

三島地区 中園英子

穏やかな春の朝日をあびながら、清水港に豪華クルーズ客船が入港する。約三千人の外国人乗客である。あこがれの大型客船だ。多くの乗客は、予約した貸切バスで周辺の観光地めぐりをする。

その日、私は地元旅行会社のボランティアスタッフの一員として、外国人を英語で観光案内する業務をさせていた。タクシーを利用してのガイドである。タクシーには、お客様、運転手、ガイドの四人である。

お客様はアメリカからのお年を召したご夫妻である。バスでの団体行動ではなく、二人でゆったりと日本の春を楽しみたいようであった。

ロープウェイで久能山東照宮に行き、参拝をし、やはり、拝殿までの階段は厳しく、四人でゆっくりゆっくり登った。本平からは日本一の富士山を眺めることができた。お客様は美しい富士山に



久能山東照宮

感動し、写真を何枚も撮っていた。富士山には感謝、感謝である。タクシーの運転手の対応が見事であった。年輩のご夫妻のために先を読んで、車を回して待っていた。お客様は、運転手の配慮をととても喜んでいらした。遊覧をして、予定どおりに清水港にもどってきた。

タクシーを降りると、大きな体の奥様が

私をハグしてくださった。ご主人はそばで顔いっぱいに笑みをたたえうれしそうに見ていた。出港である。あのご夫妻がデッキから私達を捜しているのが分かる。見つけてくれるようにと、私は大きくゆっくり手を振った。「ポー、ポー」と汽笛を鳴らして、豪華クルーズ客船は離れていった。外国からのお客様にガイドの心を教えていただいた。

暖かな春の一日を満喫し、しあわせな気分になった。



清水港 (日本丸)

**写真「静岡鉄道 市内線の最期」**  
 静岡県の教育に誠心誠意を尽くし、誇りと友達に結ばれた本会の未来を考えると、この二線をいつまでも大切にしたいです。仲間とともに喜びや生きがいを見出し、分かち合える機会を得、更には本会の活力を生み出すことになれば、平成二十年より生きたい親世を開催してまいりました。今回は、第六回目で、

副会長 深澤孝俊

**「せせらぎ」**  
 雑誌の中で見つけた風景に魅せられた画です。「奥入瀬渓谷」三回訪れた最後の旅行の感動を画にしました。「ふじ畑」新聞で紹介された熱海道路近くの見事なふじ畑でした。

**水墨画「奥入瀬渓谷」他**  
 旅行先や新聞雑誌等の紹介の風景をその時の感動で目に焼きつけ、写真を撮り墨の濃淡で画にします。

副会長 内海公雄

**水彩画「並木道」**  
 「春の石燈」「人形」

朝比奈陽子

**書「不動」**  
 「人生百年時代」心を鏡え、ゆとりをもって乗り切

鈴木美智子

**立体書画「工芸」**  
 古民家の板や土管、製材の廃物を利用して、それ等に描いた字や絵をニクロム線に電流を通して焼き切り段差をつける。浮きあがらせて彩色する。

増田 仁

**「コスモス」「しょうぶ」**  
 昨年酷暑の夏、母が全く食べられなくなって入院訓練で食べられるようになったのに三月、肺炎で再入院。五月母らぬ人となりました。心に穴のあいた気持ちで針を取り、未完のタペストリーを仕上げました。鳥に母のおもかげを乗せ

中島優美子

**「タペストリー」**  
 「コスモス」「しょうぶ」

# 秋田県

秋田県公立小・中学校退職  
教頭会会報  
松柏第二九号より

## 会長あいさつ

秋田県公立小・中学校退職教頭会

会長 工藤 英胤

子どももの在职最盛期の頃は、今に比べるとたつぷりゆとりがありました。

当時の子どもが対応したのは、子どもたちを別にすれば、校長・教諭たち、校務員に PTA の会員、その延長上にある地域の方々でした。

今は、各種支援サポーター・地域の著名人からなる学校運営協議会や地域の行事関係への関わり、それに県や市町村議会からの緊急の問い合わせがあればすぐに対応しなければならず、その他に、多岐にわたる報告書の作成等目の回る毎日です。子どもたちの話をゆつくり聞いたり、遊んだりするゆとりなど、どこにも見当たらないのではないのでしょうか。

角度をやや変えて申しますと、教師として採用後、決められたレールの上を走り続け、大きな教育機構の歯車の一部として働かされ、定年を迎えるとともに、「ご苦労様」とばかりに世間に放り出された、という感が否めませんでした。

一時は途方にくれるものの、時期が過ぎてやっとな自分のやるべき事が見えてきたように思います。それは「ある種の営利的なモノ」に対しては敏感にそして慎重に避けながら、自分の気持ちに素直に歩んでいきたいという思いであります。

考えるに、定年後の人生は一生の三分の一ほど残されています。これまでのある種の「束縛」から解かれ、それぞれが思い描いていた生き方や、

夢に立ち向かうのにふさわしい時間がたつぷりあります。そうした気持ちで会員の皆さんが互いに認め合い、温かく支え合うのが本会の趣旨だと考えます。

総会・懇親会・研修会では、たとえて言うなら「スマホである世界ではなく、新聞をながめるような緩やかな世界観」が展開される事を期待します。

そうした場から自然に生まれるエネルギーが、会報「松柏」ににじみ出て、そうした思いを会員の皆様で共有できるような本会の姿でありたいものだ、常々思っております。会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県公立小・中学校退職教頭会会報

松柏第三十号より

## 生活の見直し

湊 洋子

長引く新型コロナウイルスの影響で、以前のよきな生活が困難になりました。殆ど家の中で過ごしている状態です。かろうじて気脈通ずる友だちとは、電話でおしゃべりしたり、ラインで交信したりして近況報告をしています。が、会合や、仲間からのお誘い、私的な遊びの機会も失われてしまいました。

そこで、もっと住みよい楽しい、便利な我が家にできないだろうか、と考えました。そして今我が家は、家電がインター



ネットにつながる、スマートホーム化が実現しました。「ロボット掃除機」が定期的に掃除をしてくれます。人感センサー搭載の照明を導入してスイッチ要らずです。「スマートスピーカー」に話しかけるとテレビや照明、冷暖房をはじめとする家電が点いたり消えたりします。天気やニュースも教えてくれます。また「スマートホン」を持って家を出ると玄関の鍵を自動的に施錠してくれます。

最初は「全部機械任せにしよう」と、自分自身が動かなくなり運動不足になるのではないかと心配しました。しかし実際は、浮いた時間でたっぷり料理に時間をかけられ、健康的な食生活につながりました。好きな庭の手入れ、読書の時間も増えました。



我が家のスマートホーム化は、「心のゆとり」「時間のゆとり」をもたらしてくれました。生活のペースが豊かになり、とても心地よい日常生活を楽しんでいます。

## 思いを綴りに

赤坂 文男

今年の春六月で地域の老人クラブ会長の任を十五年間務めたのを最後として後任の方にバトンタッチしました。会長を担当した方は名称を錦木第一錦寿会から神田老壮クラブにしました。会員の皆様から支えていただいた事に感謝申し上げます。

今やっている事は英語を教えていた関係で国際交流協会員になり副会長役を担当したりしました。鹿角はハンガリーと姉妹都市になっていて当時の杉江市長さんが進めて下さったものでした。以来



日本語語学指導員を二年間派遣しています。今年で第十代目の人が帰国したばかりです。十一代目の人が十月末に渡航しました。又LLで来ている方を中心に英会話を楽しみながら子ども連れでも話そうという会にも参加して手伝っております。

又以前から大湯ストーンサークルの発掘に興味がありいろいろと教えてもらいました。

整美してから中学生に全国から修学旅行で来ていただきました。その時には仲間の方々と一緒に手分けしてガイドをしました。最近では本県と北海道、青森、岩手の十七遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を後押しするシンポジウムがありました。今月に入ってから第四次、第五次発掘調査報告書の読み合わせがありました。発掘調査の成果や思い出話を聞く会もありました。

歴史をよみ解く会は郷土を語る会や湖南を知る会で研究者のお話を聞かせていただいているところといます。時に仏具店をやっている方は漢詩をやっている講義のある時は参加して教えてもらっておりますが難しいです。十和田小学校には昨年からクラブ活動で習字を教えております。内容は月二回、四年生と五年生、昨年は四十名でやりました。今年は五名だけです。十二月上旬で終わります。手本は県の書道誌書友で書かせております。書く時は上手に書けるようになるのが目標で励みにしてがんばってくれました。

つれづれなる想い

秋山小夜子

一昨年の全退教代議員会、県小・中校退教三十年記念大会開催と重なり多忙に過ごしている頃より日々生活が静かになりつつある矢先、コロナ発生で自粛自粛という状況に外出を控えて今日に

到る。旅行好きの私にはまさに青天の霹靂である。この機に色々様々片付けに精を出すことを決意したが、過去に出会った人たちの思いが深く遅々として作業が進まない。

その中で特に四五年間も世界各地の写真入り暑中見舞と年賀状を送ってくれた教え子がいる。同じく一昨年、還暦祝いに招待された時の挨拶に、幼少の頃より蝶に興味を持ちその夢が人生の目標となり、今も追い求めてやまない同期である彼を紹介した。中学生の頃の蝶の収集に日夜とわず熱中している姿を今も鮮明に覚えている。ヒマラヤ山脈や東南アジア等、世界を飛び回っている姿を想像している。そして現在大学の研究者達より彼の収集は高く評価されているという。来年の年賀状が待ち遠しい。昨年は又原稿用紙十枚にわたっ

て彼の人生への私見が送られてきた。

自分の好きなものが趣味となり、職業となり、どんな困難に会ってもそれを克服し人生を満喫している姿に、尊敬と羨望を禁じえない。そんな教え子に出会えたことは私にとつて限りない幸せなのである。私の趣味、茶道からは生き方の有様を学びつつ四十年近く経ち、又庭や野に咲く美しい花々に心をうばわれ、幸せを感じる瞬間の想いを押し花に託して創作を続けられる日々には今は感謝している。



絵画作品

加藤義昭



富貴寺大堂に散る銀杏



ザルツブルグ市街



# 熊本県

熊本県公立学校退職教頭会  
会報 第七四号より

## 七五年前の熊本大空襲の記憶

退職教頭会会員 長谷川孝



熊本大空襲（ネットより）

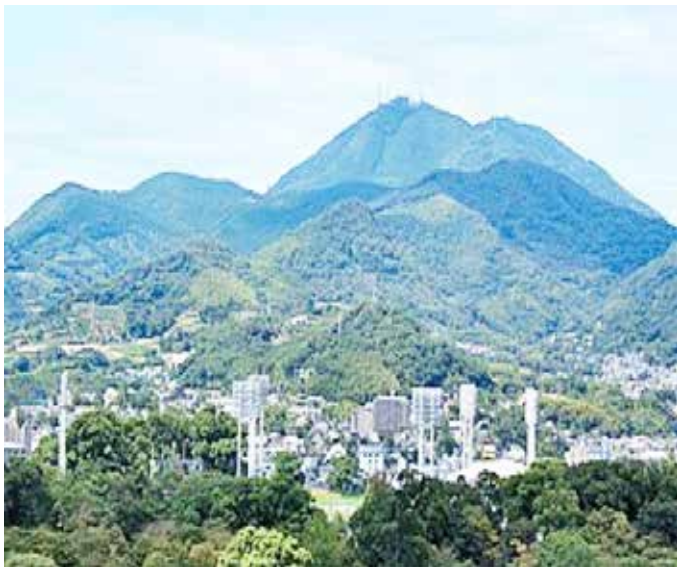
今年の七月一日の熊日新聞に「焼夷弾の雨から」から「熊本大空襲きょう七五年」という記事が第一面に掲載されていた。私はこの時小学校の三年生で、新町（当時は島崎町宮内とよばれていた）に住んでおり、大被害はうけなかったものの空襲は体験しています。それでその頃の記憶を蘇らせてみたいと思います。ここに記します。

私の小学校入学は昭和十八年で日本は軍国主義

まつしぐらの時代でした。そういう関係か、一年生の冬、昭和十九年の一月だったと思います。一時間目の勉強が始まった頃に急に雪が降り始めたら、先生が「今から遠足に行く。裸足で外に出る。」と言われ、並んで学校の外に出て歩き始めました。しばらく雪の降る中を歩いていましたが、雪が止んでしまい遠くまで行かない内に学校に戻ってきたことを覚えています。今考えてみますと、軍国主義で寒さにも強い人間を創ろうという意図があったのかなと思います。

三年生の時、町内ごとの集団下校では、今の集団下校と違って走って帰る訓練が何回か繰り返されました。日本に米軍機が飛んでくるようになり、空襲が始まったからでしょう。そして、五月末ころだったと思いますが、集団下校に分散教育が始まりました。私の住む地域では、酒屋さんの二階に集まって勉強することになりましたが、先生がいるわけでもなく、リーダーになる者もいなくて何をしてもいいのか分からず、ばらばらに皆家に帰ってしまい、それからは、戦争が終わるまで、学校にも行かず、分散教育の場所にも行かず、近所の人と遊び放題の生活でした。宿題もありませんでした。今の子供たちに比べると学力は相当落ちていたのではないかと思います。

このような状態の中で、七月一日がやってきました。当時、私が住んでいた場所は、元々、加藤清正が作った熊本城を守るための西側の外堀に当たる場所だったようです。それが、鹿児島本線を通す時、この西の外堀が埋め立てられ、鉄道を通り、また、宅地が造られ、そこに我が家が建てられました。そのため、我が家から西側には鉄道が通り、その先には田畑が広がり、金峰山一帯が見られました。春には、蓮華や菜の花が咲き乱れ、その先の石神山には桜が見られました。秋の稲刈りが終わった後、落穂拾いをし、それを母が、はっ



熊本城天守閣から見た金峰山（ネットより）

たい粉にしておやつとして食べさせてくれた。また、芹を摘んだり、田螺を獲ったりして食糧不足を補っていました。その中で泥鰌も捕まえて家で料理してもらいましたが、とても泥臭くて私は食べられませんでした。もう一つ食べられなかったのが、父がもらってきたどんぐり粉、小麦粉と同じようにして、麵に汁に混ぜて食べさせられたけど、苦くて食べられませんでした。

空襲の話に戻ります。米軍のB29の爆音が聞こえ、空襲警報が発令されましたが、私はまだ庭に立っていました。すると、私の家から、西に三百メートルほどの田畑に南から北へパツ、パン、パツと焼夷弾が五十メートル間隔ぐらいに落とされ、焼夷弾が五十メートル間隔ぐらいに落とされていきました。それが、丁度、地面に火花が仕掛けられたように綺麗に見えて見続けました。するとすぐ、先程の所から、百メートル手前に、同じ様に南から北へ焼夷弾が落とされていきました。これ



を見て父が「今度はこつちだ。早く防空壕に入れ」と叱られて防空壕に逃げ込みました。

しばらくして、B29の爆音が聞こえなくなったので、防空壕から庭に戻りました。家から南西の方を見ると、二階建ての大きな建物の柱が真っ赤になって崩れ落ちていくのが見られました。また、ひとの騒ぎ声もきこえてきました。この場所は、商工学校と呼んでいた所で、この当時は軍人さんの宿舍みたいになっていた所です。この場所は戦後、新制中学が出来た時、西山中学校が置かれた場所です。幸い我が家の方には焼夷弾は落ちなくて助かったのですが、我が家の端南東の柱の下から二メートル位の所に機銃掃射の弾の跡が残っていました。

我が家の被害はそれだけではありませんでした。兄が当時、旧制の中学生で、学徒動員として、健軍にある軍事工場で働かされていて、これもB29の焼夷弾にみまわれ、この焼夷弾の直撃ではなく、一度地面に落ちてバウンドした焼夷弾に肩をやられたと言って家に帰って来ました。治療は柚子の種の黒焼きとひじきの黒焼きに卵の白身を混ぜてすり潰したものをハンカチ程の布に広げてそれを肩に貼り付けて、これを数日続けてよくなりましたようにです。

新町一帯には大きな被害もなく、私たち子どもは遊び呆けていました。八月九日、私に将棋を教えてくれた近所のお兄さんの家に三人程で遊びに行きました。その日は居（お）られず、三人で隠れんぼをして遊んでいました。遊び疲れた昼頃に、友達が「あれを見てみる」と金峰山の方を指差しました。金峰山の後ろに大きな落下傘みたいな雲が見えました。「珍しか雲ね」と話しているうちに雲はどんどん大きくなり、横に広がり、やがてどす黒く赤身をおびて、こちらの方にも広がって来ました。「気味が悪い」、「何か怖い」と言っ

それぞれ家に帰って行きました。

二三日して、一新小の運動場に遊びに行きました。運動場の北の端には相撲場がありました。そのすぐ隣に直径五、六メートル、深さ三メートル程の大きな茶わんみたいな穴が掘ってあるの見てそばに近づくと兵隊さんが居（お）られ、「この穴は何ですか」と聞くと、「この穴の端の方から周りを走ってだんだん下の方まで走って行き、まん中の所で止まって気をつけが出来るか訓練する所だ」と教えてくれました。

また、二三日前の気味の悪い雲のことも聞いてみました。すると「あれはマツチ箱爆弾ですごい力のある爆弾らしい」といわれたことをおぼえています。

その時はまだ原子爆弾という言葉はなかったのだでしょう。そして、十五日遊びから帰って来ると大人たちが泣きながらラジオを聞いていました。玉音放送です。日本が戦争に負けたことはあとで知りました。

熊本市の焼夷弾の惨状を目にしたのは二年程し



てからです。

遊び仲間の一人が「おい、水前寺にプールが出来たぞ。みんなで行かんか。」との声に「行こ、行こ」と五、六人、みんなへこ一つで、電車通りを歩いて向かいました。坪井川を渡った頃から焼け跡が見え始めました。花畑町一帯焼け野原で、鉄筋の専売公社と勸業館が残っていました。次に貯金支局と市役所の建物が見え、通り町筋では熊日の建物だけ、あとは焼け落ちた瓦がいっぱい散乱しておりました。ところどころに掘立小屋がみられました。

水前寺に着くと水前寺公園の南の端に二五メートルプール程の広さが池に続いて造ってあり、そこに沢山の子どたちが入っており、とても泳げるようなものではありませんでした。それで、そのプールに浸かることなく、帰ることになりました。帰りは行きと違った道を帰りましたが、どこもかしこも焼け野原でした。現在の発展した熊本市になることなど想像だにしませんでした。

序（ついで）に我が家は新幹線が通ることになり退き、無くなってしまいました。



現在の水前寺公園（ネットより）

# 岡山県

岡山県公立学校退職教頭  
会会報  
福寿草第四六号より

## 音頭取り

美作・英田 青山 質夫

今年も地区の納涼祭で、この地域に伝わる四つ拍子（盆踊り）の音頭を取った。当日はあいにくの雨模様だったが、踊りの始まる午後七時頃には雨も上がり約一時間程度の踊りができた。納涼祭は、地区住民の繋がりを深め、幸せを願って行われているサロンの活動の一つである。当日は、午後六時より女性たちの作った美味しい料理をいただきながら人々が談笑し、その後踊りとなる。私が音頭を取るきっかけとなったのは、納涼祭が始まった十数年前にさかのぼる。



その時は、四つ拍子のカセットテープ（以下テープ）をかけて踊っていた。私はそれを見て、せっかく盆踊りをするのなら生の音頭の方がよいと思っただけで、そこから音頭取りの勉強を始めた。まず、テープ起こしによる台本づくりとテープを聞きながらの練習をした。

そして、翌年の納涼祭で初めて音頭を取ったが、節が出てこない、太鼓に合わない等、結果はさんざんだった。でも地区の人々は心温かく見てくださった。その後、年数を重ねるうちに今では一応の音頭が取れるようになった。



今後は、地区の人々がより気持ちよく踊れるような音頭を取る事を、自分の課題として精進をしていこうと思っている。

## 一生に一度は富士登山

岡山 野上忠司

旅行会社のパンフレットの『一生に一度は富士登山!!（一泊二日）初めての方でも安心!!』につられ、登山未経験の私がこのツアーに一昨年夏参加することとなった。

《二日目》前泊のホテルより早朝出発。

中央道、富士スバルラインを通り富士山五合目に到着。昼食後、吉田ルートを専任ガイドの方を先頭に、休憩を取りながら



五合目より富士山山頂（ネットより）

約四時間かけ八合目の山小屋『太子館』へ。宿では、早目の夕食カレーライスを食べ、畳一枚分に服を着たまま寝袋に入り雑魚寝。

《二日目》真夜中から山小屋出発。

ヘッドランプの明かりを頼りに約四時間かけ富士山頂へ。だんだんと朝焼けが始まり、雲海から昇るご来光に拍手と歓声。頂上の久須志神社で金剛杖に朱印を押してもらい噴火口へ。下山道は砂礫で滑りやすく（三回も尻もち）、重いリュックを背負った下山は年のせいもあり、体力の限界を越えもうへとへとになりながら約四時間かけ元の五合目へ。

幸い心配していた高山病にはならなかったが、下山中に左足親指の爪を負傷。最後に山中湖温泉に立ち寄り帰途へ。

旅行後、友人に富士登山のしんどかった思い出を話すと、「富士山は遠くから見るときれいなんです、登るもんじゃあねえ」と言われてしまった。

でも、最後へとへとになりながらの登山だったが、『日本の最高峰・世界遺産の富士山』に登ったという達成感、満足感が得られたことは貴重だったし、また山頂からのご来光や眺望のすばらしさにも感動できたこのツアーに、心から感謝したい。

まだ一度も富士山に登られてない方は、ぜひ一度登られてみては。一年でも早いうちに・・・。



山頂付近（ネットより）